

【外国語・中2・「Unit 5 Earthquake Drill」】①

育成を目指す資質・能力

単元目標：日本に住んでいるALTや外国の人に向けて、日本で災害が起きたときの対応を伝えるために、端的な英語でマニュアルを作成することができる。

本時のねらい：地震発生時の行動や事前の備えについて、端的な英文で意見を述べることができる。

ICT活用のポイント

目的・場面・状況の把握 / 考えの共有 / 発音の確認 / 英語表現の確認 / 個別最適な学びの実現 等

ウォームアップ・帯活動

【活用場面①】

課題把握

【活用場面②】

課題追究

【活用場面③】

振り返り

事例の概要

【事例におけるICT活用の場面①】（目的・場面・状況の把握）

○災害時の対応について、教師が大型モニターに映す視覚的情報から、とるべき行動を考え、適切な英語表現を考える。

【事例におけるICT活用の場面②】（考えの共有）

○共同編集ソフトを活用し、各自が考えた英語表現とその理由を伝え合う。

【事例におけるICT活用の場面③】（発音の確認／英語表現の確認／

個別最適な学びの実現）

○ICT端末の音声入力機能を用いて、各自が考えた英語表現を文書作成ソフトに反映させる。

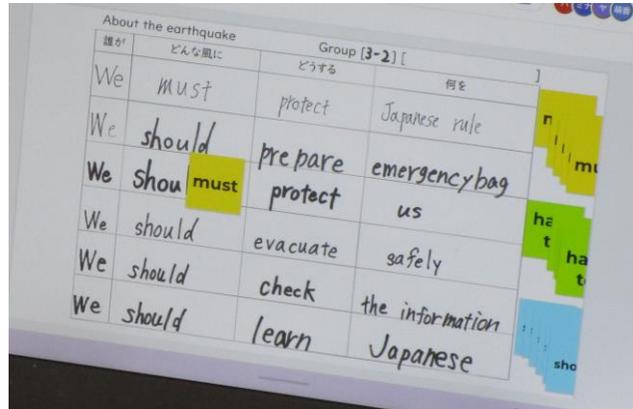
【外国語・中2・「Unit 5 Earthquake Drill」②】

【事例におけるICT活用の場面①及び②】

大型モニターの活用により学級全体で学習課題を共有



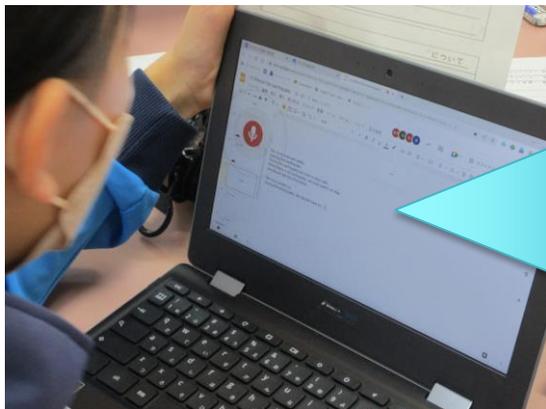
共同編集ソフト活用により各個の考えを共有・再検討



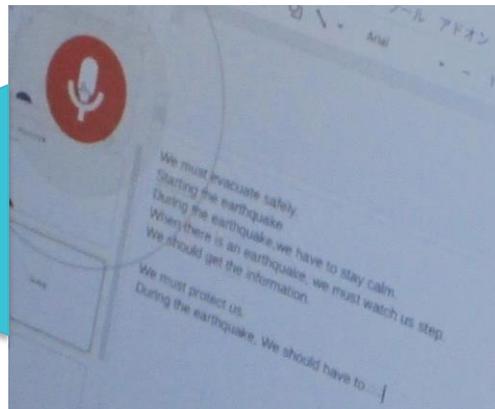
- 前時までに学習した言語材料を活用できるように、教師が災害発生時の行動を表す絵や写真を示し、ALTとのやり取りを通して適切な英語表現を確認した。
- グループで一台のICT端末を用いて、共同編集ソフトを活用しながら、災害発生時の行動としてより適切な内容となるように各自の考えを伝え合った。共同編集ソフトには、画面上に既習の言語材料である助動詞等を表記した付箋紙を準備し、用いる表現を入れ替えながら検討できるようにした。

【事例におけるICT活用の場面③】

ICT端末の音声入力機能の活用



音声入力機能により入力された英文



- グループで再検討した災害発生時の行動について、マニュアルの作成に向けて英語で表現するにあたり、ICT端末の音声入力機能を活用して入力した。
- ICT端末に向けて吹き込んだ英語表現と、画面上に表示される英語との差異を確認しながら、自らの発音を振り返ったり、表示された英語をワープロ機能により修正したりした。
- ICTの活用により、学習課題に即して、自分の考えを適切な英語で伝えようとする生徒の姿が見られた。